■TBS News　2011 年 5 月 20 日 18 時 20 分

◇1 号機海水注入、官邸指示で中断

メルトダウンが明らかになった 1 号機をめぐる新たな事実です。震災が発生した翌日の 3 月 12 日の夜、東京電力が海水注入を開始したにもかかわらず、総理官邸の指示により、およそ 1 時間にわたって注入を中断させられていたことが JNN の取材で明らかになりました。
「20 時 20 分から、現地では第 1 号機に海水を注入するという、ある意味、異例ではありますけれども、そういった措置がスタートしております」（菅首相、3 月 12 日）
1 号機の原子炉への海水注入は当初、3 月 12 日の午後 8 時 20 分から始まったとされていましたが、実は１時間以上早い午後 7 時 4 分に開始されていたことが、今月 16 日に東電が公開した資料に明記されています。
真水が底をついたため、東電が海水注入に踏み切ったものですが、政府関係者らの話によりますと、東電が海水注入の開始を総理官邸に報告したところ、官邸側は「事前の相談がなかった」と東電の対応を批判。その上で、海水注入を直ちに中止するよう東電に指示し、その結果、午後 7 時 25 分、海水注入が中止されました。
そして、その 40 分後の午後 8 時 5 分に官邸側から海水注入を再開するよう再度連絡があり、午後 8 時 20 分に注入が再開されたということです。
1 号機については、燃料がほぼすべて溶け落ちる「完全メルトダウン」という最も深刻な状況であることが明らかになっています。事故の初期段階で、官邸側の指示により 55 分間にわたって水の注入が中断されたわけですが、専門家は「あの段階では核燃料を冷やし続けるべきで、海水注入を中断すべきではなかった」と指摘します。
「（Q. 淡水がつきれば速やかに海水注入すべき？）原理的にまさにそういうこと。（Q. 中断より注入続けたほうがよかった？）そうだと思いますね。特に理由がないのであれば」（東京大学総合研究機構長　寺井隆幸教授）
JNN では、政府の災害対策本部に対し、官邸が海水注入の中止を指示した理由などについて文書で質問しましたが、対策本部の広報担当者は「中止の指示について確認ができず、わからない」と口頭で回答を寄せています。（20 日 15:59）

■読売新聞　2011 年 5 月 21 日

◇首相の意向で海水注入中断…震災翌日に 55 分間

東京電力福島第 1 原子力発電所 1 号機で、東日本大震災直後に行われていた海水注入が、菅首相の意向により、約 55 分間にわたって中断されていたことが 20 日、分かった。
海水を注入した場合に原子炉内で再臨界が起きるのではないかと首相が心配したことが理由だと政府関係者は説明している。
臨界はウランの核分裂が次々に起きている状態。原子炉内での臨界には水が必要だが、1 号機は大震災直後に制御棒が挿入され、水があっても臨界にはなりにくい状態だった。
東電が (5 月) 16 日に発表した資料によると、1 号機の原子炉への海水注入は震災翌日の 3 月 12 日の午後 7 時 4 分に開始された。それ以前に注入していた淡水が足りなくなったため、東電が実施を決めた。
複数の政府関係者によると、東電から淡水から海水への注入に切り替える方針について事前報告を受けた菅首相は、内閣府の原子力安全委員会の班目春樹委員長に「海水を注入した場合、再臨界の危険はないか」と質問した。班目氏が「あり得る」と返答したため、首相は同 12 日午後 6 時に原子力安全委と経済産業省原子力安全・保安院に対し、海水注入による再臨界の可能性について詳しく検討するよう指示。併せて福島第 1 原発から半径 20 キロ・メートルの住民に避難指示を出した。
首相が海水注入について懸念を表明したことを踏まえ、東電は海水注入から約 20 分後の午後 7 時 25 分にいったん注入を中止。その後、原子力安全委から同 40 分に「海水注入による再臨界の心配はない」と首相へ報告があったため、首相は同 55 分に海江田経済産業相に対し海水注入を指示。海江田氏の指示を受けた東電は午後 8 時 20 分に注入を再開した。その結果、海水注入は約 55 分間、中断されたという。

‖ 『菅総理の海水注入指示はでっち上げ』

最終変更日時　2011 年 5 月 20 日

福島第一原発問題で菅首相の唯一の英断と言われている「3 月 12 日の海水注入の指示。」が、実は全くのでっち上げである事が明らかになりました。

複数の関係者の証言によると、事実は次の通りです。

12 日 19 時 04 分に海水注入を開始。
同時に官邸に報告したところ、菅総理が「俺は聞いていない！」と激怒。
官邸から東電への電話で、19 時 25 分海水注入を中断。
実務者、識者の説得で 20 時 20 分注入再会。

実際は、東電はマニュアル通り淡水が切れた後、海水を注入しようと考えており、実行した。
しかし、 やっと始まった海水注入を止めたのは、何と菅総理その人だったのです。

この事実を糊塗する為最初の注入を『試験注入』として、止めてしまった事をごまかし、そしてなんと海水注入を菅総理の英断とのウソを側近は新聞・テレビにばらまいたのです。

これが真実です。

菅総理は間違った判断と嘘について国民に謝罪し直ちに辞任すべきです。

……

‖ 海水注入問題・全責任は菅総理

最終変更日時　2011 年 5 月 22 日

『真実は一つです。』

3 月 12 日 20 時 20 分の海水注入は菅首相の英断ではなかった。
この点については既に官邸はウソをついていたことを事実上認めています。

しかし 19 時 25 分の海水注入中断については、班目原子力安全委員長が再臨界の危険性を指摘し、その意見に従い東電が勝手に中断したと昨日政府は発表しました。

皆さん！　嘘は長持ちしません。

その日の夕刻、班目委員長は報道機関の取材に対して、「専門家としてそんな発言するわけがない」と官邸の発表を全否定しました。
班目委員長は「水を入れる事による再臨界の可能性は無いわけではないが、すでに淡水を入れているなかで淡水を海水に切り替えたからといって再臨界を心配するようなことなどありえない。
原子力のイロハのイだ!」と言い切りました。
官邸はイロハのイも解らずに嘘ついた事になります。

私はその事も怖いとおもいます。

怒鳴りまくり致命的に間違った判断をする総理。
嘘の上塗りに汲々とする官邸。その姿は醜く悲しい。

菅総理、あなたは、3 月 11 日、原子力災害対策特別措置法にのっとり原子力緊急事態宣言の発令をした。
その結果あなたは大きな権限をもった。東電もあなたの指揮に入った。
全ての責任は総理にある。
海水注入を一時間近く止めてしまった責任はだれにあるのか？
菅総理、あなた以外にないじゃありませんか。

真実は明らかです。
それを私達は知っています。

……

‖ 海水注入・コロコロ変わる政府説明

最終変更日時　2011 年 5 月 24 日

うーん解らない。やはりおかしい。

昨日の委員会での菅首相の答弁に対して多くの方がこう思われたのではないでしょうか。
3 月 12 日の海水注入について、政府の発表はコロコロ変わり、その結果意味不明な点がいくつもあります。
それをごまかそうとすれば訳がわからなくなるのは当たり前でしょう。

「試験注入」とは何なのか？
注入後何分で止めるのか？
そうであれば何故止める指示をするのか？
上手く行けばそのまま続けるのか？

なぜ初めから試験注入実施を発表しなかったのか？
「試験注入」はそもそも本当にマニュアルにあるのか？

「試験注入」は、「海水注入の中断指示」をごまかすための表現だった、と考えれば胸にストンと落ちます。

官邸に居た東電の武黒一郎フェロー（前副社長）は班目委員長の「海水注入により再臨界の危険性がある」との指摘で、東電に海水注入中断を伝えたと、政府は発表しましたが捏造である事が後の班目氏の証言で明らかになりました。
その後、官邸の要請で、「再臨界の可能性はゼロではない」との発言に訂正し班目氏も了解しました。
今日の委員会では「ゼロではないと言ったのは事実上ゼロという意味だ」と述べています。

つまり再臨界の危険性発言の全否定ですね。
なぜ官邸は発言をすりかえたのか？
せっかく始まった海水注入を中断する理由としては、「ゼロではない」では弱すぎる、という理由でしか有り得ないからでしょう。
このどちらにも取れる極めて消極的な進言で重大な判断をするでしょうか？
そんなはずはありません。
官邸もそう考えたから言ってもいない発言を創作したのでしょう。

誰の発言が、海水注入中断という重大な判断に、決定的影響を与えたのか？誰の指示なのか？

18 時に海水注入指示と政府は発表していながら、 18 時から海水注入の是非を検討するための会議を開いたと理解に苦しむ説明をしていますが、この検討会議の主催者は菅総理でしょう。
菅総理の発言により注入は中断させられたと考えれば、すべてはつながります。
東電は注入について保安院に報告したと言っています。
官邸の会議には保安院も東電も入っていて、会議の主催者、最高責任者である総理の菅氏が知らない。
もしそんな事が起こったとすれば現政権は政府の体をなしていません。

いずれにせよ原子力緊急事態の布告をした以上、最高責任者つまり CEO は、菅総理です。
「東電が」との大好きな言い訳は通りません。
いよいよ不信任案提出の時は迫りました。

……

『検証 福島原発事故　官邸の 100 時間』 木村英昭　岩波書店　(2012.08.08)　144～146 頁

「海水を入れていることを知らないのに、海水を止めろ、なんて言うはずがない」

情報の出処がただ「政府関係者」となっている 2011 年 5 月 21 日付の読売新聞の報道はこうだ。

(記事：上記)

柳瀬(※)に「あなたが安倍さんに情報をリークした黒幕と言われていますが、本当ですか？」と尋ねた。
柳瀬の答えはこうだ。
「まず、 安倍さんと話したこともありません。突然、僕の携帯に記者から電話が掛かってきて『総理が海水注水を止めさせたんですか？』『止めろと言ったんですか？』という問い合わせがありました。海水を入れていることを知らないのに、海水を止めろ、なんて言うはずがない。多くの記者が『安倍さんが、詳しいことはそこにいた (保安院長の) 寺坂か、柳瀬に聞いたら分かると言っている』と言ったそうです。寺坂さんはその時、官邸にいませんでした。僕は『安倍さんの言っていることは嘘です』と言いました。記者の問い合わせに『あり得ません』と言下に否定した。そしたら、みんなつまらなそうに電話切るんです。余りにも心外です。ホント冗談やめてくれ、ふざけるな、っていう感じですよ」
この一連の経緯を尋ねようと安倍に取材を申し込んだが、返事は無い。

※柳瀬唯夫　大臣官房総務課長。松下経産副大臣に経産省にいても情報が来ないからと、柳瀬が松下に官邸に行くことを進言して、柳瀬も「副大臣を 1 人で行かせる訳にはいかないから」と、その場の流れでたまたまその日「3 月 12 日」に官邸に行き、危機管理業務をおこなった